midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム北相模

May 2011 No.305-306

５月号の１枚：若柳嵐山のヤマブキ

［巻頭言］豊饒の森　ＦＳＣ認証林：若柳嵐山の森

人と森の生態が共生する森林は、豊饒なのだ

地元・相模湖のハンズクラフト作家：吉永晃也さんが、国際建築展に出品製作の為の原木を探しにＦＳＣ材を見に来た。吉永さんは、「こんな美しい森と、良い木が直ぐ側にあったのは嬉しい」と言った。この森を手入して約10年が経過する。森の変化は徐々であるから気付かなかったが、吉永さんからそう言われて改めてその目で森を見て回った。程良く間伐した木の間から光が差し込み、木々は生き生きとしている。この所、活動に参加する仲間から嬉しい報告を受けている。

この森の羊歯数・種類は県内一だ。一般に生態系は、広葉樹林の方が豊かだと言われているが調査の結果、意外！、手入した針葉樹林の方が多かった。小灌木の実・草の実が豊富だ。兎の糞を見た。タヌキの集合トイレがあった。野ネズミ食堂があった。猪が目の前に姿を見せてくれた。沢山の野鳥がいる。日暮れ時、ムササビが親子で滑空した。夜にはフクロウが鳴いている。

小原の森の間伐材でベンチを作ったら、福祉協議会が大量に買ってくれた。この森の間伐材・ＦＳＣ杉で積木を作ったら、その積木が欲しいと引き合いが随分と入っている。この森に森林ボランティアとして年間、延べ1200人以上の人々が来てくれている。しかも家族連れ、小・中・高・大学生から年配者まで幅広い年齢層だ。桂北小の子供たちが、「かぶと虫牧場」を作ってくれている。緑のダム体験学校も開催している。外国人の参加もある。森林行政とも良い関係だ。

ぐるっと森を回って見た。当会が管理している森の境界線外の雑木林が良く手入れされている。地域ぐるみで森は美しくなっていく。ご近所の地主さんたちが森の手入をしているからだ。
“人と森の生態が共生する森林は、豊饒なのだ”

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2011.05

５月　１日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
５月１５日（第三日曜日）：
若柳・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

4月3日（第一日曜日）

4月に入りだんだん暖かくなってきましたが、今回はあいにくの曇り空。気温もぐぐっと下がって森の中はまだまだ寒い一日でした。
今回の活動は久しぶりに小林山での土留め作業と沢沿いの整理でした。去年は山の奥の方や斜面の上の方で土留め作業を行っていましたが、今回は小林山の入り口付近から斜面が綺麗に見えるようにしよう！ということで各自分かれて作業を行いました。

Forest Nova☆は小林山の入り口から、緑のダムの方たちは少し奥の方から沢に落ちていた枝や広葉樹に引っ掛かっていた枝等を使って土留め作業をしていきました。

午前は枝打ちされずに土留めに使われていた材の処理をしたり、欠頂木といわれる途中で折れて先のない木を緑のダムの方にアドバイスをいただきながらForest Nova☆全員で協力し2本処理しました。緑のダムの方たちは6～8mもある大木を移動させたり次々と土留めをしたりと瞬く間に作業を進めていきました。また、Forest Nova☆が伐倒した欠頂木を運ぶ際には活動に参加していた男性陣が一丸となって声を掛け合いながら運びました！

お昼になって一休み。Forest Nova☆のメンバーは沢に転がっていた丸太を運んで即席ベンチを設置しました。森の中で丸太に座って食べるお昼ご飯は優しい味がしました。

午後は午前中に土留めをした場所の確認と補強をし、その後斜面の上に移動して土留め作業を進めようとしましたが、ここで問題が発生しました。手頃な枝が辺りに落ちていませんでした。そこですぐ近くにあった3本目の欠頂木の処理にかかりました。3年生の植木さん指導のもと2年生の竹内君が伐倒しました。さすがに1年も経つと伐るスピードも早くなっていました。伐倒した欠頂木を土留めに利用し、小さい枝や杉の葉をみんなで集めて隙間を埋め、作業を完了しました。

斜面の上の方は傾斜がきつく不安定な足場に慣れていない植木さん以外のForest Nova☆の2年生、3年生は大苦戦。なかなか下りられなかったり、滑ったりしていました。

今回の活動は久しぶりの土留め作業ということもあり、身体をよく動かした非常に充実した1日でした。翌日からは全身筋肉痛との戦いとなりました。

今回の報告は以上です。

松村　勇佑
（Forest Nova☆）

[定例活動]若柳嵐山の森

4月17日（第三日曜日）

「活動カラフル～春いっぱい」

四月、野に山に一気に咲いた花々、森のガ―デンもヒヤシンス、ムスカリ、水仙などがカラフル、花々が心を癒す。参加者は一般１８名、高井戸中ＯＢ・１３名、学生連合フォレストノバ・７名、生命の森宣言東京７名。計４５名

森林整備班は、梅園左側の桐と栗を伐る。桐は、かなり大きな樹木で四方に枝が伸びており、周りに小径や電線があり伐倒難易度高し。チェンソーの切り込みも難しく苦労したが無事、伐り終えた。男性の伐倒隊の中、キビキビ働く女性は初参加の長崎真由さんの頼もしい姿、森林学科卒のベテラン。

生命の森宣言班は、何時もの通りの熱心な仕事ぶりで成果も間伐１０本、搬出７本。重量物の原木丸太の搬出は、下り斜面は良いが沢からの上りは大仕事。コロ上を二人掛かりで引き上げる（次ページ写真・左）。

この材は、９月２５日からの東京フォーラムで開催の「世界建築会議；UIA２０１１東京」に“森づくりモノづくりコンテスト・優秀作品”の原木・ＦＳＣ材活用の製品になって出品される。生命の森宣言班は、「今日は、リキが入りました」とのこと。

卒業後も活動を続ける高井戸中・ＯＢ班は、森の地図を片手に今後の作業地域を確認調査（写真・中）。森への色んな好奇心をふくらませる。体力の旺盛な青年たちの今後の活動に乞う御期待。日本蜜蜂班の黒川さんの巣箱は、生き残ったのは一群でしたが沢山のホンモノ蜂蜜を残してくれた。天然蜂密の周りを群れて囲んで、蜂蜜の味見の中学生ＯＢも、さながら蜜蜂の様な賑やかさ！（写真・右）。

お花畑班はブラックベリー、ブルーベリーなど、ミニ果樹園に植えた。吉池さん提供の色彩鮮やかな“ハナモモ”の成長もたのしみ。

径路つくり・間伐・枝打ちとなどで森を整備してきたＮＯＶＡの森。午前・午後、植生調査と材の搬出を交互で取りくむ。そして何時も、活動終了後の道具の手入と後片ずけ、ごくろう様。

夫々に活発な春の活動でした。

伊藤　小夜子（本会、会員）

[報告１]
桐の老木を伐倒

4月17日（日）

先日１７日の嵐山で、桐の老木伐採に割り込ませてもらい貴重な体験をさせていただきました。

チェンソーの刃を両側から入れないと届かないような太い桐の木、近くの道路側と引込み線の２方向に、電話線が走っている厳しい環境で、四方に枝を張った１０ｍを超える桐としては巨木です。高級な桐の箪笥を作るには十分な太さです。

総勢１０名を超える方々の議論百出、四方に枝が伸びているため、重心がどの方向か掴めず、どこに倒れるかわかりません。リーダーの現役植木職人、川田さんの指揮のもと、自ら５ｍも木に登り牽引用のロープを掛け、２方向に引っ張りロープをかけました。

いよいよチェンソーの出番。老木に一礼し受け口を慎重に切り進みます。引き手に声をかけ、追い口に入りました。急にチェンソーに加重がかかりました。つまり予定とは反対側に重心があったのです。急いで引き手に合図をし一気に引っ張ってもらいました。

ゆっくりと巨木が予定の位置に倒れていきます。なんと中心が約半分腐って空洞になっていました。つるの厚みを３分の１くらい残したのですが、まったく利いていません。２方向の牽引と１０名を越える方々の、力強いパワーが予定通りの伐倒を実現しました。

老木ではなく年輪からは２１年でした。女の子が生まれると桐の木を植えて、二十歳過ぎに桐の箪笥を持たせる話が頷けました。切り株を見た養蜂の黒川さんが一声かけ、中の泥をかき出す人まで大勢が力を合わせて、日本ミツバチの御殿が出来上がりました。

依頼主の地主の鈴木さんが道路から見ていて、声をかけてくれました。近くに能面を彫る方がいて、桐の木が最高の素材とか、根元から直線部分は地面から離して、自然乾燥へ準備しました。多くの英知がミツバチ御殿や能面まで、残りでまな板を作りましょう。

斉藤　憲弘（本会、理事）

[報告２]
神奈川県知事を訪問

4月11日（月）

１１日、「相模原内陸・グリーンハブ都市」構想推進の応援をお願いに、本会の丸茂、川田両理事と相模原商工会議所（都市産業研究会）長崎克央さんとともに神奈川県松沢知事をお訪ねしました。これまでのご指導のお礼を申し上げるとともに以下、お願いをいたしました。

後任の黒岩知事（４月２３日から）に上記の都市構想を含む当会活動の紹介と、引き続き活動支援して頂く事。時期を見て、黒岩知事に紹介頂く事。

当該構想の当事者である相模原市を、県として支援して頂けるよう諸般、手配頂く事。加山・相模原市長にも、その旨、直接伝えて頂く事。

松沢知事は、これらを快く、引き受けて下さいました。

皆さま、ご存じのように松沢知事の任期は、４月２２日までですが、知事は更にステップアップした政治活動を胸に秘めておられるようでした。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告３]湘南の森活動報告

3月11日（月）

佐藤は七沢の小林機械でチェーンソーを修理してからの午後参加。ヤブラン平の除伐した枯れ木の後始末にかかる。他の人たちは、ヤブラン平西方のツバキ群生地付近の下草刈りを実施。

帰路の山道で地震に遭遇、人も森も大きく揺れ動き大地震だと直感した。すぐ解散したが、人によっては、５時間も歩いた人、避難所で一夜を明かした人、暗闇の大渋滞を６時間かけて帰った人など、それぞれに大変な一日を過ごしました。

この日の神奈川新聞の朝刊にガイドマップが大きな写真入り記事で紹介され、かなりの反響を呼び、その後、配布は品切れ状態となる大盛況であり、活動の今後に大いにプラスとなります。

これも運命、一日遅れれば、記事にはならなかったに違いありません。犠牲者・被災者のことを思いやりながらも、湘南の森の強運に感謝。私たちはこの森を通して地道に貢献してゆくしかありません。２６日は体験希望者を佐藤が案内し高麗山まで往復、ヤブラン平周辺の下草刈りの実習を行いました。終了後、３名の方が入会を希望され、即会員となられました。一見退屈に思える草刈りに意義を見出してくれたのも、森の持つ魅力と我ら仲間の雰囲気の良さでしょうか！？実りある一日でした。

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告４]フォレストノバ活動報告

Forest Nova☆は、今年度で創立５周年をむかえました。Forest Nova☆が創られたのは2006年で、東京薬科大学と麻布大学の学生同士が「損保ジャパンの環境交流部」を通し、緑のダムとの関わりを持ったことにより活動が始まりました。

そしてこの創立5周年の節目という事もあり、3月末に「もりのば大会」という名目でOB・OGと現役が集まり交流会を行いました。

Forest Nova☆の団体名は、「森は複数の木が集まり一つの生命体のように機能している。そして森は新しい命を育み星を守っている」という所から”森の新星”という意味で名づけられました。

創立当初は何をしていいのか戸惑っていたそうですが、今では先輩方の活動により、嵐山の調査区B（現在では名称を「Forest Nova☆の森」とさせていただいています）の管理・整備を学生中心で行わせていただけるようになりました。

また、今回創立5周年をむかえるのにあたって緑のダムの方々よりお祝いの言葉をいただきました。ありがとうございました。

お祝いの言葉の中に、なぜForest Nova☆の学生は週末を返上して活動しているのだろうか？というお話がありました。森の仕事には3K（きつい、汚い、危険）という言葉がありますが、それを踏まえてForest Nova☆のメンバーが毎月山に入り泥だらけになりながら活動を続けていくのは、やはりメンバー自身が森・自然・生き物が好きだという事もありますが、各環境イベントに参加して森の重要性・問題を伝える側として口先だけでそれらを伝えるのではなく、自分自身が経験したことをもとに伝えることで、その言葉の重みが変わってくると考えているからです。そのためにも、この現場での活動はこれからも大切にしていきたいと思っています。

そして、毎年メンバーが変わっていく学生の団体を継続させることはとても大変ですが、今回行ったようなOB会を通し、OB・OG・現役で交流し団体のあるべき姿、理念を見失わないようにします。先輩方の活躍の上にあるこの活動を大切に、これからもForest Nova☆の活動を、森のため、そして自分のためにも精一杯していこうと思います。

まだまだ手探りの状態ではありますが、Forest Nova☆の活動を、今後ともどうかよろしくお願い致します。

植木　聡（Forest Nova☆）

[報告5]「UIA2011東京大会　チェアシティ展」コンペ入賞作品の出展参加

FSC材・間伐材を生かしたデザインコンテストを４年間実施

地元の相模湖商工会とNPO法人緑のダム北相模、民間企業が協働して「森林再生事業促進実行委員会」を組織し、森林再生事業を創出する活動の一環として、FSC材・間伐材を生かしたデザインコンテストを広く全国に募集し3年間で640余の応募作品を集めました。そして優秀作の試作を製作するなど、地元のＦＳＣの森林を活用することで、地場産業の活性化に貢献しています。

「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」に参加

4回目のコンペは今秋開催される「UIA2011東京大会」に参加することになりました。建築のオリンピックと言われ世界中から1万人来日予定の「UIA2011東京大会」に、相模湖ＦＳＣの森から世界へ発信して「森づくり・モノづくり」の大切さを呼び掛けるものです。森と都市をつなぎ生産者と消費者をつなぐ事業として、相模湖の職人たちが活動する「相模湖モノづくり研究会」が、小田原 健審査委員長の指導のもと入賞者と協働で「相模湖ＦＳＣの森の認証材」で製作し、「UIA2011 東京大会　チェアシティ展」のコンペ作品展示部門に出展します。

コンテストの審査会は平成23年3月18日（金）相模原市相模湖総合事務所別館会議室で以下の審査委員によって行われ、208点の応募作品の中から下記の通り入賞者とＵＩＡ東京大会出展候補作品が決まりました。

東京大会は9月25日～10月1日まで開催され、東京国際フォーラムを中心に丸の内、日本橋など周辺の会場に様々なデザインの原寸大の「チェア」が展示されます。なお、入賞作品のパネル展示と受賞式も同会場で期間中に行われる予定です。

コンテスト入賞作品より
左：出展候補作品「縞（しま）」
右上：出展候補作品「gentle trees」
右下：「Many frames create the various spaces」

コンテスト入賞作品

「間伐材活用部門」
○最優秀賞
　東　俊一郎「縞（しま）」
○優秀賞
　Didit Novianto
　Farahdina Septian
　Davina Iwana
　辻本崇樹「gentle Trees」
　国澤信二「表裏の長椅子」

「ランドスケープ部門」
○最優秀賞
　西宮啓介
「Many frames create the various spaces」
○優秀賞
　福本　遼
「A-round Wood Bench」
　熊谷裕治
「サイコロcubeの積木ベンチ」

「間伐材活用部門・子ども」
○最優秀賞
　澤木　昂「長々ベンチ」
○優秀賞
　横尾玲次「まるたハイベンチ」
　滝沢　翔「鉛筆ベンチ」
　塩見和真
「すわる人に会うイス」

「ランドスケープ部門・子ども」
○最優秀賞
　木すちひろ「かいだんベンチ」
○優秀賞
　渡辺俊介
「ごうかなウッドベンチ」

佳作作品は、相模湖商工会のウェブサイトをご覧ください。

淵上　美紀子（森林再生事業促進実行委員会事務局長）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

５月、若柳嵐山の森にてFSCフォローアップ審査

５月の若柳嵐山の森定例活動において、FSCフォローアップ審査を予定しています。前回の認証更新時に指摘があった、バッファーゾーンの確認、利害関係者リストの確認、Forest Novaの森、生命の森宣言東京の森、望星の森を中心とするなみすけの森プロジェクトなど現在進行している森林作業計画書の確認などを行う予定です。

定例活動参加時の服装にご注意ください

春先になり、森の中でもハチの活動が活発になってきています。特に例年スズメバチが確認されており、会としても４月から５月にかけてスズメバチトラップの設置を行っています。定例活動の参加時は黒系の服装をさけ、白やグレーなど明るい服装での作業をお願いします。

「望星の森を中心とするなみすけの森づくり」プロジェクトを開始

杉並区立高井戸中学校の生徒を中心に同区のキャラクターである「なみすけ」の名前を付した森づくりプロジェクトを４月から開始しました。望星の森（本会森づくり計画書ポリゴン小班55-2）を中心として、その下側から寺跡までと、その両側の尾根までの区画、ポリゴン小班の57-2,56,55-1,45-1,13,14,15,444-1を活動区域に設定し、同校中学生、卒業生を中心に　活動を続けます。今後は区内の中学にも参加を呼びかける予定です。

林内に設置したスズメバチトラップ

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１３年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミニテイ、マルモ出版